

令和4年度

事業実績報告書

(総括)

社会福祉法人 泉寿会

特別養護老人ホーム・ケアハウスいずみ苑

(1)稼働率 74.3%(令和3年度より16.2%ダウン)

令和4年度、職員の退職が複数名おり、職員補充が間に合わず稼働率を下げて対応しております。又、12月と1月に施設内にて新型コロナウイルス感染症が発生し、利用者多数の入院が出た為さらに稼働率が低下しており、結果として前年度と比較して16.2%の稼働率低下となっております。

(2)職員関係

・新卒採用に関して

令和4年4月に法人にて新入社職員が6名(介護職4名、栄養士2名)入職しております。4月1日～6月15日まで法人研修を行い6月16日より配属先研修となっております。

配属先は以下の通りです。

- 特別養護老人ホームいずみ苑:介護職員2名
- 特別養護老人ホーム小倉町いずみ苑:介護職員1名
- 特別養護老人ホーム第2いずみ苑:介護職員1名 栄養士1名
- 介護老人保健施設いずみ苑リハビリケアセンター:栄養士1名

・退職者について

- 退職者:6名 異動者:2名

計8名の欠員

退職理由ですがメンタル不調:2名、人間関係:2名、不適切な業務態度:2名

計6名となっております。異動者の2名ですが、人間関係が原因での異動となります。他施設からの職員異動も困難であることから、法人会議にて稼働率を下げ対応する事となり稼働率の調整を行っております。

退職・異動の主な理由が「精神面(メンタル)」である事、令和5年度は職員のフォローアップできる体制整備に力を入れていく予定です。

(3)ケアハウスに関して

今年度も引き続き、コロナウイルス感染症対策として、入居者の外出範囲を制限して対応しております。買い物のご希望について、「いきいき通販」※高齢者施設用の通販を導入し、個人ごとに注文が出来るように対応しております。

介護老人保健施設 いずみ苑リハビリケアセンター

(1)稼働率 年間平均 90.3%

稼働率 95%を目標にしましたが、前年度 85.9%より 4.4%アップはしたものの目標は達成することが出来ませんでした。

入所に関しては、在宅での生活が難しいと自宅から施設入所を希望される方が 11名と今年度も多かったです。そのうち、通所リハビリテーションを利用されていた方が入所され、引き続きいずみ苑リハビリケアセンターの利用に繋げる事ができました。

いずみ苑の職員体制が整うまで 2名の利用者を受け入れました。また、第 2 いずみ苑のコロナクラスター発生時は柔軟に対応し法人施設への協力ができました。

退所に関しては、他施設へ退所された方もいましたが、入所の長期化に伴い高齢（90代）の方も多く泉中央病院への入院が多かったです。在宅復帰されたのは 6名で、法人特養へ 9名の方が移動されました。

(2)職員関係

フィリピン EPA 介護福祉士候補者も 2年目に入りました。日本語の勉強が難しいと相談があり外部の日本語講師のレッスンを導入し語学力向上を目指しました。

中堅職員の役職者候補の育成に関しては、個人面談を行い意思を確認してから仕事の割り振りをしたり、役職会議にも参加してもらい意識改革から行いました。4月より役職者が 3名増えたので引き続き会議や報告・連絡・相談を大事にしていき、稼働率アップに力を入れながら入所者、職員が笑顔で生活できるように努めていきます。

(3)新型コロナウイルス感染症

令和 3年 2月にあったコロナクラスターの経験を元に感染対策につとめ職員の感染はありましたが入所者は 0名でした。引き続き入所者の体調も含め職員一人一人の健康管理も仕事の一つなので感染対策しながら気をつけていきます。

(4)加算関係

コロナ感染症もあり利用者宅に行く事がなかなか難しかった為、入所前後訪問加算は取れず、加算アップはできませんでした。

(5)苑内活動

行事では、去年は室内で行っていた流しそうめん、納涼祭をコロナ禍前のようにフロア別で野外（地下駐車場）にて行い雰囲気を楽しんでいただけた皆様には好評でした。

特別養護老人ホーム 小倉町いずみ苑

(1) 稼働率 96.9%

今年度は、新型コロナウイルス感染症の発生もありましたが、稼働目標である96%以上の稼働を達成できました。満床時の入所希望者には第2いずみ苑の短期入所を提案し、第2いずみ苑と連携をしながら入居希望者の方に待機してもらうことによって、空室が出た際に直ぐに対応することができました。

(2) 職員関係

常勤職員の退職者は2名となっており、昨年に引き続き退職も少なく安定していました。令和4年度は職員の教育に力を入れ、役職者による定期的な職員面談、施設内研修、施設外研修、WEBを活用し多くの研修に参加しチーム力の強化と介護技術の向上を目指しました。

ベトナム人EPA介護福祉士候補者4名の教育にも力を入れ、令和6年・7年の介護福祉士国家試験に合格できる様に教育にも継続して力を入れました。模擬試験も実施し、平均7割以上の点数が獲得できるようになっております。

令和4年5月からは、千葉県留学生受け入れプログラムの学生（ベトナム国籍）2名の受入れを行っています。基礎からの教育が必要となるため、特に教育には力を入れました。令和5年4月から介護福祉士養成校に入学。介護福祉士の国家試験の合格を目指していきます。

(3) 新型コロナウイルス感染症

令和4年12月14日～12月29日 新型コロナウイルス感染症が発生しました。利用者2名が新型コロナウイルス感染症に感染。早期の対応を行い感染の拡大を防ぐことが出来ました。今後も定期的なBCP事業計画の見直しと感染症対策を徹底していきます。

(4) 加算関係

令和4年4月から施設内の電子化や資格者の様々な取り組みを行い、新たに加算の算定を行いました。加算取得により活動収益も大きく増加しています。

(5) 外部・地域との関り

介護福祉士養成校、社会福祉士養成校、近隣高校のボランティア、特別支援学校、義務教員志願者の介護体験など、新型コロナウイルス感染症にも留意しながら、外部や地域との関りを持つことが出来ました。

令和5年度の法人新規採用の内2名が小倉町いずみ苑で行った「福祉を知ってもらう」活動を通して就業に繋がりました。

特別養護老人ホーム 第2いずみ苑

(1) 年間平均稼働率:87.7%

稼働率は前年度比+15.2ポイント増加となりました。

前年度、新型コロナウイルス感染症でのクラスター発生後に円滑な受入れを実践したこともあり、受け入れ再開後の利用者数増加に繋がっています。

又、ショートご担当のケアマネージャーより、他の利用希望者を紹介頂く事が増えており、事業所間の繋がりを深めることが出来ました。

(2) 職員関係

令和4年度の離職者は介護職2名となり職員が定着した年でありました。

背景には、施設長や各ユニットリーダーとの面談の機会を設ける事で課題や目標の共有が出来た事、稼働の向上という施設の明確な目標に皆で取り組めたからだと考えています。今後、より稼働アップを狙っていくためには介護人員採用は必至であり、今期稼働率にも大きく影響するものと考えています。

(3) 施設内対応

緊急ショートステイ対応者8名、看取り対応者8名の実績となります。

特に看取り対応者に関しては、年々増加傾向にあります。当初は終末期対応の知識と経験不足による不安から職員からの不満が挙がる事もありましたが、勉強会、ユニット会議での情報共有や実践を通して、ご意向に沿った最後を迎えてもらえるよう、一人ひとりが案を出し合い丁寧に対応できるようになってきました。

※看取り介護加算申請を予定

(4) 苑内活動

ユニット単位での活動を基盤とし、フロア内で漢字ゲーム、トランプ、数字ゲーム、大人の塗り絵など、お一人お一人がやりたいことを選択できる環境が整ってきました。

納涼祭や敬老会では、第2いずみ苑の特長を活かして生 YouTube 配信(限定配信)を行うなど、感染対策を行いながらも皆様と楽しめる企画を発信しました。

千葉県あんしんケアセンター千城台

☆総合相談業務

- ・令和4年度の総合相談件数は1,106件、前年同様の相談件数です。
相談内容は介護保険関連や認知症、精神疾患関連の相談が前年度より増加、新型コロナウイルスの影響によりサークルや地域活動が休止となり、対人交流の場や運動機会が減少したことが背景にあります。
地域の様々な活動が休止となるなかで、センターの広報活動を行う機会が限定されましたが、活動が再開された地域団体を随時訪問し、高齢者の総合相談機関であることの周知活動や連携調整等を行っています。

☆介護予防支援業務

- ・センター直営の体操教室は4月～6月は屋外公園にて開催、9月以降は以前の千城台公民館、千城台コミュニティセンターを利用して再開、また、若葉区健康課と体力測定会を共催し、地域高齢者の閉じこもりによる体力低下や健康状態悪化を予防する活動を行いました。
なお、当センターが担当する「要支援1,2」の方の介護保険ケアプラン作成件数は、
5,452件、前年度比28件の増加です。サークルや地域活動が休止となったことで介護保険を利用し、フレイル（虚弱）予防目的で通所介護（デイサービス）の利用を希望する方が増えています。

☆包括的、継続的ケアマネジメント業務

- ・「若葉区ケアマネージャー研修会」や高齢者専門機関の相談員を対象とした「若葉区ソーシャルワーク連絡会」、医療と介護の連携推進を目的とした「若葉区多職種連携会議」等をオンライン開催し、継続的な「顔の見える関係づくり」を行っています。
集合形式の研修会等の開催が困難のなか、今後もオンライン開催が多くなりますが、内容を充実させることで各専門職の資質向上確保の機会を設けます。

☆その他

- ・新型コロナウイルス感染状況を注視しながら、コロナ禍で休止となった地域住民向けのフレイル（虚弱）予防等の講座再開に向けて準備を進めています。
また、認知症の理解に向けて県立千城台高校や担当地区の中学生を対象とした「認知症サポーター養成講座」の開催も予定しています。